

ピローなし回路の動脈チャンバー引込長さとお実血流量の関係・脱血状態の改善の検証

(医) 財団はまゆう会 新王子病院

渡邊 悠介、山田 一代、大塚 賢二、
瀬川 賀世子、西島 博満、箆島 明彦、田中 孝夫

【目的】以前、当院ではピローの状態によって透析中の脱血状態を把握していた。DCS-100NX(日機装)の自動化に伴いピローの無い回路に変更した。そこで、動脈チャンバーの引込長さを脱血の判断材料として使用できないか検討した。

【対象・方法】慢性維持透析患者 153 名に対して、設定血流量を 100~250ml/min の 7 段階に設定した。引込長さと透析モニターHD02(ニプロ)を用いて実血流量を測定した。HD02 による実血流量の測定値と引込長さから導き出せる実血流量の計算値に相関があるか、引込長さによって実血流量を推測できるか検討した。また、PTA 前後の引込長さについても検討した。

【結果】測定値と計算値による実血流量において強い相関を認めた。また、吻合部から脱血部の間の狭窄では PTA 後に引込長さの改善が見られた。

【考察】本研究によって動脈チャンバーの引込長さを測定することは、実血流量の把握やバスキュラーアクセス管理に有効と思われた。